

火の見櫓

(題字は西辻八尾市長)

発行所
八尾市消防団
発行責任者
八尾市消防団長
松村芳治
八尾市高美町5-7
TEL(0729)92-0119
FAX(0729)92-7722

僕の名前が決まりました
「消防団」です
よろしくね!



自主防災の要として



松村消防団長インタビュー

①消防団長を引き受けられた動機をお聞かせ下さい。団員経験がお有りとのこと聞きましたか?

このたび、消防団長を是非引き受けて頂きたいとの要請が有りました。かつて、第六分団で十七年間団員(五年間分団長)として従事しており、地域のボランティアとして、もう卒業させていたのだと思っておりました。しかし、責任の重大さを考え、悩みましたが、地域の皆様の安全のために、微力でも役立てばと思ひ直し、お引受けすることにしました。

③継続しておられる趣味は?また、その魅力は何なんでしょうか?

二十数年来ゴルフを続けています。気分転換、ストレス解消に役立つと思います。(ちなみにHCは22歳です。)

④健康管理で、特に注意されていることはございますか?

漢方薬を毎日愛飲している位で、あとは余り何事もこせこせとこだわらず、前向きな気持ちで暮らしています。

⑤八尾市消防団の魅力を簡単に表現しますと?

大都市周辺の消防団として小教精鋭主義といえますが、十個分団約二百五十名のまとまった活力あふれる消防団だと思っています。

⑥団員に期待することは?

少子化・高齢化の進む中で色々な問題をかかえ大変な時期ですが、市民皆様の安全の担い手としての役割

を、充分認識した上での活躍を期待しています。
⑦モットーをお聞かせ下さい。

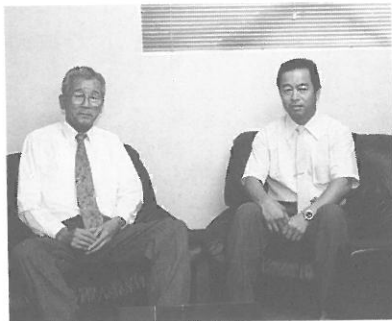
当消防団としては、久々の生え抜きの団長として過去の経験を生かし、今後共、地域住民に信頼される消防団として、住民の生命・身体及び財産をあらゆる災害から守り「自分で自分の郷土を守る」郷土愛をもって日夜訓練を重ね、精進し、次の世代に継承していきたくと思っています。

⑧消防団広報に期待されることは?

以前、ある地域で「消防団って何してるんや」と聞かれたことがありました。

プロフィール

住所 八尾市神宮寺
生年月日 1933(昭和8年)12月13日
身長 180cm
体重 66kg
血液型 AB
星座 射手座
家族構成 妻・子供(2男1女)
職業 松村ニット(株)取締役社長
松村物流(株) 〃
団歴 1961年(昭和36年) 団員
1964年(昭和39年) 班長
1968年(昭和43年) 副分団長
1973年(昭和48年) 退団
1976年(昭和51年) 再入団・分団長
1981年(昭和56年) 退団
1998年(平成10年) 再々入団・団長



第四十二回

大阪府消防大会に出場して

第七分団広報部員 植田竹治

第七分団が、本年度大阪府消防大会において小型ポンプ操法の部に中河内地区支部代表と決まり、分団内で選手の人選が行なわれました。前回の経験から、今回は一チーム四人にしようとして行くことになりました。五月下旬から訓練を始めましたが、当初は選手達の自覚も薄く、全然話にもならない状態でした。

六月に入っても一進一退で、未完成部分について集中的に指導される日々が続き、選手交代の話も出てくる様な状態でした。そんな中「これではダメだ、なんとかしよう」という声が出た。そこで、本部の指導員以外にも自主訓練を行い、それでも遅れている選手は家で操法の基本ビデオを観て、自分で工夫・練習を積み重ねました。

七月に入った頃、初めてうまく出来ました。その時は全員が、一瞬無言になり、拍手と共に「よかった」「やったら出来る」と等と声が上がりました。そして八月二日の中河内地区支部総合訓練において、関係者からも「すばらしい」と声が掛かるほど見事な、操法を見せてくれました。

それ以後一段と操法に磨きをかけ選手の自覚も十分感じられ、団員との想いも通じる様になり、大会を迎えました。

当日は小雨の降る中、七チーム中最後の出場で、六番目のチームが終わる頃には、選手達の緊張もピークに達してしまいました。でも、いざ開始されると掛け声も大きく、元気良く入場、見事な操法を披露してくれました。しかし、勝負は時の運に左右され、残念ながら勝負の女神は我が団に微笑みませんでした。

大会を振り返って、選手達は「思えば結果が出せぬ残念」ほつとすると同時に、何か淋しい気持ち。一つの事をやり遂げた充実感と自信を今後の人生に生かしたい等の正直な感想を話してくれました。

私が七年前に選手として出場した時に感じた同じ気持ちに語り、思い出します。



胸に熱いものがこみあげて来ました。

最後に、斎当分団長は「訓練期間中、長きに渡りご協力戴いた関係者の皆様並びに団員及び家族の皆様、本当にありがとうございました。成績は別としてこの訓練を通じ、第七分団員全員から新分団長へ、団員の心は一つ」と言う大きなプレゼントを戴きました。皆が団結し、行ってきたこの数ヶ月間の訓練は、決して大会のためだけのものではなく、今後の分団の活動・日頃の生活の中に大いに役立つものと思えます」と安堵の微笑みの中にも、目を潤ませながら語ってくれました。

最後になりましたが、今回活躍した選手を紹介いたします。

- 指揮者 近藤日出男
- 一番員 樋口慎治
- 二番員 稲田喜則
- 三番員 大西秀和

筆者もこの訓練に参加。取材して分団員と喜怒哀楽を共にし、私自身の人生にとって貴重な体験が出来たと思えます。

新団員の皆様にお聞きしました

お聞きしました

四月一日午後七時任命式がとり行われました当日、十一人の新団員さんから次のようなアンケート結果を頂きました。

▼入団の動機・経緯は？

全員が地元町会長・分団長・先輩団員からの強い依頼により決意したもので、中には「いやいや」と付け加えた方もおられました。当日の心境として、「えらいもん引き受けた」「大丈夫やろか」「何をさせられるんや」「新鮮な気持ち」等不安の中にも「頑張ります」の言葉も聞いて「やる気」を感じました。

▼職業は？

会社員七名・経営者四名。勤務地は、市内六名・市外五名。

▼趣味は？

映画鑑賞・釣り・スノーボード・サーフィン・テニス・野球・ゴルフ・パチンコ・少林寺拳法・空手等多彩である。



八尾市消防団員任命式

▼特技・免状は？

職業に関係して、水道設備士・建築設計士・電気・ガス工事士等に混じり、書道五段で師範免許状をお持ちの方もいらっしゃるようです。

▼平均年齢三十八歳の皆さんは？

平均年齢三十八歳の皆さんは「先輩諸氏のご指導を宜しくお願い致します」との事でした。

新団員

- 第三分団 川端弘幸
- 第五分団 松田悦治
- 第七分団 松本 廣
- 第八分団 小西光一
- 近藤日出男
- 第九分団 堤下富彦
- 笹井伸彦
- 角倉武士
- 西村光彦



消防団に入団して3ヶ月過ぎました。

その期間中に、実際の火事現場に行く機会がまだありません。先日、ポンプ操

消防団員初任科・幹部 教養訓練

平成十年五月十七日(日)

午前九時から午後四時まで、大阪府立消防学校で行われ、八尾市から初任科八名、幹部七名が参加した。

前後の大雨とは対照的な快晴で、非常に蒸し暑い炎天下のもと、教養・規律訓練が実施され初任科・幹部受講者とも真剣な眼差しで受講していました。

その後、感想を聞くと、初任科では「規律が厳しくて大変でしたが、それだけに頑張らなければならぬ」と決意しています。と答えに、前向きな自覚と意欲が伺えました。また幹部は、「自分の行動・言動に注意し、団員の模範となるよう頑張る」との事でした。

任命式当日の調査結果では、言葉・表情に不安を覗かせた新団員さんも、「心構えと自覚が出来てきた」「責任の重さに身が引き締まる思い」「地域の為に頑張ります」等、著しい心境の変化を頼もしく思い、安堵した。

親から子へバトンタッチ 『家族は宝』

退団者 角倉豊一

第九分団老原分団元部長 拜命以来22年間団活動は無事に終る事が出来ました。のは、皆々様方の御協力並びに御理解の賜物と感謝しています。

今入団当時を思い出しますと、消防団の事は何も分からずに入団し、善き先輩思い出で一杯です。当時の団員の職業は、農業従事者が多く5割以上を占めていました。今では昼間家に居る人は、4割以下に減っています。ですから私の退団と同時に、息子百営業が入団致したのです。団活動の中で、如何しても必要なのは「家族の協力」です。

「家族の協力」です。我が分隊も昨年度に新車を配備して頂き、お披露目の時、特に奥様方に協力して頂き、そのお礼の方々に、分隊家族全員38人で日帰り旅行に行き、日頃の感謝の気持ちと、させて戴きました。最後に私の motto を「部長は父親・班長は母親・団員は子供」の家族構成で頑張つて下さる事を願つて居ります。

『あとはまかせ』

新団員 角倉武士

今年四月一日付で、八尾市消防団員に任命され、五月に初任科・教養訓練を受け、所属分隊でも放水・器具の扱い方を教えて頂きました。その中で「国民の生命・身体及び財産を守る」為に活動する消防団と教えられ、今まで父親を家庭・仕事「コンビニ経営」の両面でアシストしてきまして、これからは、私がしつかりと自覚し団活動をして行きたいと思えます。

震災体験に学ぶ

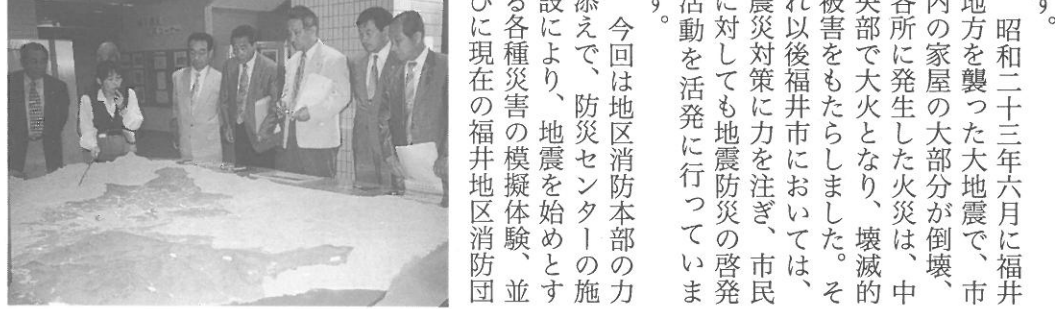
福井地区消防本部をたずねて

第九分団分団長 松村勝美

五月二十二日、私としては分団長就任以来、二回目となる幹部視察研修会に参加しました。今回は特に、震災における消防団の初期活動を学ぶため、福井地方大地震で大被害を受けた福井市を訪問しました。

福井市は人口二十四万四千、面積三百四十km²、福井県の県庁所在地で、県下の政治・文化・経済等の中心地として発展しています。

昭和二十三年六月に福井地方を襲った大地震で、市内の家屋の大部分が倒壊、各所に発生した火災は、中央部で大火となり、壊滅的被害をもたらしました。その後福井市においては、震災対策に力を注ぎ、市民に対して地震防災の啓発活動を活発に行っています。



今回は地区消防本部の力添えで、防災センターの施設により、地震を始めとする各種災害の模擬体験、並びに現在の福井地区消防団の活動状況をご教唆頂きました。ここでその一部を紹介させていただきます。防災センターは、通常は市民防災教育の拠点として、災害時には市民の避難場所、また災害活動の基地として活用出来るよう、数々の設備と大量の食糧・資機材が備蓄されています。パンフレットの写真どおり、チャームिंगな女性職員の内、各種研修コーナーを廻ることとなりました。

一階展示ホールで福井大地震を含む福井地方の主な災害の記録を映像によって紹介され、災害による悲惨な状況を目の前で見て、自然災害の恐ろしさを再認識しました。

体験ホールでは、地震を始め台風、津波、火災等の模擬体験が出来、設備があり、特に地震体験コーナーでは実際の居室と同じ体験室で、過去の大地震に合わせて震度一〜七までを縦横揺れを併せて体験しましたが震度七になると、私は飛ばされそう、座っているのが一杯の状態であった。私達は普段、家族に対して地震が起これば「すぐに火を消しなさい」とかあれこれ言いますが、いざ突発的に直下型の地震を体験してみると、思った様な行動が出来ず、地震に対しても日常の訓練の重要性を痛感させられました。その他、火災シミュレーション・津波映像システム・台風、雷、雨体験装置等、どの施設も「目で見て、聞いて、身体で感じて行動する」数々の体験は、少しでも防災にたずさわった者として、貴重なものであったと思います。

その後、あらゆる災害に対応出来る情報管制センターの見学等、精力的に研修し、最後に地元消防関係者と意見交換で「これからの消防団のあるべき姿・活性化」について活発に論議され、本堂に有意義な研修会であった。

「自分達の生命・身体・財産は、自らの手で守ろう。」と阪神淡路大震災以後、自主防災の重要性が論議され久しいが、非日常的な災害を身近なものとしてとらえる場である防災センターは是非必要であると感じました。

また、非常災害時における確実な情報の伝達・管理が初期活動に大きなウェイトを占めており、八尾市においても、あらゆる媒体を活用出来る体制を日常的に確立しておく事が大事であると理解しました。

今後、この様な研修を通じて自己研鑽し、「災害に強いまちづくり」の主幹をなす八尾市消防団の一員として頑張るつもりです。



特集 第一分団

木村重成祭と第一分団

第一分団 広報部員 赤沢一巳
第一分団 広報部員 緒方靖司

第一分団では、毎年六月五日に、木村祭が行われます。地域に根の張った消防団活動・火災予防を広げるため、地元消防団が祭主になって、地域の人の喜んで頂くために開催しています。

第一分団の管轄区域内に木村長門守重成公の史跡があります。此の史跡は現在、幸町六丁目にあります。以前は第二寝屋川の川筋にあつたそうです。昭和十四年に大阪府の史跡に指定され、昭和四十二年第二寝屋川の開削工事により、今の場所に移されました。木村重成という人物は、大阪「冬の陣」・「夏の陣」で知られ、豊臣家の家臣として、「夏の陣」大和川なる若江の堤で最も激しく戦い、西郡の里で戦死された武将と言われている。

宝暦十四年(西暦千七百六十四年)重成公の百五十回忌にあつて、重成公を討ち取った安藤長三郎の子孫で、彦根藩士安藤次輝が建立しました。元和元年(西暦千六百一十四年)六月五日に木村重成公が戦死されたから、此の長い歴史のある史跡を、八尾市消防団第一分団の先輩達が、以前消防団と呼ばれていた昔から、お



護りしていると聞いています。木村重成公が主君を守るために命をかけて戦った歴史的事実、私も消防団も命がけて「我が町を守るぞ」との熱い思いでいっぱいです。今年も五月から準備が始まり、事前に、木村祭の開催のお知らせを出し、開催前の日曜日に全員集合、木村の詰め所の掃除、問題の提起、検討を、当日の午前六時から墓前祭に取りかかると、竹口登分団長の開催の挨拶、西郡神社の神主様のお祓いの後、出席者の皆様



にお参りいただき、無事終わりました。消防本部、各分団からも応援を頂き、本分に有り難う御座いました。その後は、夜の祭りに移ります。夕刻から夜店の店主が集まり、準備が始まると、木村公園内も活気が出てきます。消防小型ポンプ車も公園内に展示し、火災予防をアピールします。五時頃になると子供達が集まり、やがて老若男女が、近隣・遠方より集まって来られます。夜店で楽しむ親子や、お参りする人でいっぱいになります。周囲の人々から「団員の皆さん、今年もご苦労さん」、元先輩達も「頑張ってるか」と声を掛けてくれます。

多種多様な世の中にあつて、火災予防を広めてゆく為にも、大切な木村祭で有ったと思います。これからも、工夫して西郡の里の消防祭、地域と消防団が一体となって喜び合える祭りとして参ります。以前、木村史跡内に桜の若木を植えました。今年三月には多くの花を咲かせました。これから毎年春が楽しみです。(次号は第二分団)

本部分団

黒川

兄ちゃんや

前回、特集記事で協力頂いた方々のおかげで良い記事を書くことが出来ました。本当に有り難うございました。

さて、本部分団は前回の特集記事にありましたように、毎月1日を「火災予防デー」として管内を巡回します。

その後屯所で会議を行い、最近出動した火災現場の反省や防火対策、そして、消防行事の日程などを話し合います。

ある日、当番で車両点検のため屯所へ行つたときの事です。屯所のドアをガラガラと開けると、小学生が、2、3人やってきて「なあなあ、こつて消防団で言うねやろ」と聞かれ「そや、ようしつてんあ」と答えると「うん、お父さんが言うてた」と返してきました。地元の方々も色々と消防団の事を、話しているんだなと思うと大変ありがたいです。そして子供達は、消防車をジロジロと見て、しばらくすると「おっちゃんも消防団のひとやねなあ、バイバイ」と言って走っていきました。ショックでした。それは、僕がまだ、25歳だからです。おっちゃんと言われるのはまだ早い。「おっちゃんやない、兄ちゃんやあ！」と言つたのですが、もうそこには、子供達の姿はありませんでした。本部分団は、これからは防火、防災に頑張ります。そして、若作りにも力を入れたいと思っています。

第二分団

橋本

普通救命講習会開く

4月26日(日)萱振集会所において、団員11名・一般参加者26名「その内女性18名」合計37名参加による普通救命講習会を開いた。はじめに応急手当の目的と必要性の話から止血応急処置及び心肺蘇生法の手順をならした。つぎになぜ人工呼吸や心肺蘇生法を早くしなければなら

分団いんふおめーしょん

いかという話をきいた。呼吸停止2分後に人工呼吸を始めると90%ぐらいの確率で生命を救えるが5分後には25%と急ぐ必要がある。到着するまでの早急が命を救う。到着するまでの早急が命を救う。到着するまでの早急が命を救う。



受講者は3班に分かれ訓練人形をあいてに一生懸命人工呼吸や心肺蘇生法を体験した。おわりに、一般参加者から「救命講習会に参加させてもらってよかった」という声を聞き、これからの機会をもうけて地区のために防災及び救急の役にたちたい。

第六分団

辻野

恩智祭と消防団

恩智神社は今から1500年以前の和時代(雄略天皇)におまつりされ国内でも有数の古社であります。西暦994年に河内・摂津国で疫病が広く流行り被いの神事が行なわれ、各地の村を渡御し平癒をお祈りしたことが、恩智夏祭りの発祥と言われ、現在1000年の歴史を受け継ぎ盛大に斎行されています。

8月1日朝露の午前5時一番太鼓(呼出し太鼓)が鳴る...氏子・夏祭りの主人公(評議員・青年団)達は恩智神社に集りふとん太鼓・御輿を組みあげ、その姿は伝統の中に厳格さを感じられる。午後1時恩智会館前にどこからともなく祭りのはつぴ姿の氏子が集り、青年団が升酒を振舞い、消防団も揃いのはつぴ姿で、町会・友人・消防団のOBの方々の接待を行います。1時半頃集まった氏子達が伊勢音頭を歌いながら恩智

神社へ向い厳かに式典が行なわれた後、氏子団長(畑中裕昭・現第六分団恩智分隊長)の「太鼓はじめ!」の号令で伝統ある恩智夏祭りがはじまる。

恩智神社の131の石段をおよそ1トン半もあるふとん太鼓と、御輿が一緒に駆け下り中谷・陽喜の御旅所にて繁栄と安全の祭典を行ない昼の部として最後の御旅所天王の森へと渡御する。夜の担ぎ出しは、午後8時天王ノ森にてふとん太鼓・御輿が壮絶な担ぎ合いを披露し、多くの観衆を魅了する。その後ふとん太鼓・御輿は恩智神社へと向い観衆が見守る中、131の石段の参道を氏子全員の力を出し、助け合つて上がつていく巡行は勇壮そのものであり、恩智夏祭りの最高の見せ場で、消防団員全員が祭りの一線の経験者で、肩も揃っている為、ふとん太鼓の後部を担ぎ、長く・きつく・しんどい部所であるが、松岡孝司分団長の「消防団頼むぞ!」の一声で団員全員とOBの力を借りて、消防団の意地と根性で担ぎあげます。



父から子へ、子から孫へと受け継がれた勇壮な夏祭と同じく、消防精神も後々に伝えられて行くでしょう。

第八分団

植田

みんなの広場

八尾市消防団の各分団、分隊の屯所には、広報紙のテーマになっている火の見櫓が24あるときいています。この火の見櫓は、その昔火事

現場の発見に大きな役割を果たしてはいたが、今はサイレンの設置と火災後のホース乾しだけの物となっているようです。この昔ながらの貴重な財産を無用の長物にしないよう後世に残し、更に活用出来る方法はないかと考えます。

例えば、防災の為の広告塔、即ち、防火標語の垂れ幕の取り付け、電飾を施し「火の見櫓ツリー」等費用の面もありますが、一般市民の防災・防火意識向上に利用出来ないものか、良いアイデアがあれば広報部員迄お知らせ下さい。

第九分団

大窪・吉内

弓削分隊ボーリング

6月6日(土)午後8時八尾ボーリング・アローで恒例の家族慰労会を開きました。団員と家族・OBと家族で総勢26名参加してボーリングを楽しみました。

家族慰労会は、これまで色んな事を催しました。例えば一泊二日や日帰りの旅行とか家族全員で会食をしたりしました。

なぜ家族慰労会を行なうかと言えば、私たち団員は、家族の協力無しには任務を遂行出来ないのです。これからも、団・家族を大切に精一杯ガンバリます。

追伸今回のボーリング大会では、両幹事は裏方に徹しましたので、賞品には無縁でしたが、今回は本気で頑張ります。



人命救助で表彰さる 鹿野豊 第八分団 分団長



鹿野分団長(右から3人目)

三月五日午後四時三十九分頃、八尾市東山本町五丁目先、恩智川に女性(六八歳)が転落したのを目撃した尾形昌亮さんが、折良く左岸を車で走行中の鹿野分団長に救助を呼びかけた。分団長は消防本部に通報後、水深約1mの川に入り、水面に浮いていた女性を護岸下まで搬送し、他の通行人、久次米康平・柳楽純司さんと協力して引き揚げ救助した功績により、団長の感謝状を受けたものである。

大阪府地域防災 総合演習実施

五月十三日(日)大阪府、大田市、近畿地方建設局の主催による総合演習が、大和川右岸(河内橋下流)で実施されました。

主催者をはじめ、大阪府警察、陸上自衛隊、各市長村、各消防団、水防事務組合、一般企業が参加、総勢千七百五十一名と航空機・車両等百余台で行われました。当日は、前夜からの雨で、足下が非常に悪く、全員泥だらけになりながら、実践さながらの演習でした。

訓練想定は、大型で強い台風の来襲による豪雨のため大和川では、水位が急激に上昇し、水防警報が発令され、地元の水防団をはじめ、水防関係機関が緊急出動し、必死の努力を重ねた。しかし河内橋右岸下流三百メートル付近に於いて、漏水等が生じるに至り、被害が発生し始めた。八尾市消防団は、恩智川水防事務組合として演習種目の「積土のう工」を行った。



この地域防災総合演習に先立ち、四月二十一日(火)に、恩智川左岸の福万寺治水緑地において水防訓練を実施した。

八尾・東大阪の消防団員総指揮者以下八十一名が参加、土のう作りに始まり、杭打ち積土のう工、せき板工、積土のう工、月の輪工等の工法を訓練した。

総監は、八尾市消防団の松村団長、総指揮は、同川田副団長で、第五分団及び第八分団の二十名が第三小隊として参加した。

林野火災想定訓練

第六分団 岸本

六月二十一日(日)午前八時過ぎ小雨の中、消防職員の協力を得て松村消防団長、松岡福祉委員長を始め、地区の役員が見守る中、大畑山会館において山



技術団員講習会

本部分団 黒川

七月二十六日(日)に技術団員講習会が実施されました。受講するのは各分隊の技術団員二名、その他に消防・消火の知識、技術力の向上を目指す団員を含め十六名が受講しました。講習内容は非常にレベルが高く、火災現場到着時の消防車両の部所の方法、現場に適應したホースの中継、放水体型、それに伴うポンプ車の計器類の確認、状況の判断、筒先への水圧調整等です。そして、その他に、ポンプ車に装備された機関の説明など、大変勉強になる内容で、受講された団員も、真剣そのものでした。火災が発生し消火活動を行ううえで、技術団員は、



火事を想定した恩智・北部分隊団員で「合同訓練」を執り行いました。今回は火災現場における指揮・命令・伝達システムを重点に訓練を行いました。

大畑山キャンプ場東側斜面からの出火を想定して、小型ポンプ3台、側搬車1台で近くの池から簡易水槽に水を入れ、側搬車・小型ポンプを経由して放水を始め、鎮火後飛び火のために南側斜面に延焼したとの想定で、側搬車よりホースをつなぎ放水しました。

その後、団・本部合同の「反省会」を行い、活発な意見が交換された。

今後とも、第六分団は2年に1回は、林野火災を想定した訓練を行っていきたいと思います。

八尾河内音頭まつり開催

八月二十八日(金)

三十日(日)

「ひと味違います!今年八尾まつり」と題し、第21回八尾河内音頭まつりが、八尾河内音頭まつり振興会の主催で、3日間に渡って開催されました。

今年も、八尾市制施行50周年にあたり、夏のメインイベントとして、盆踊り・パレードをはじめ様々なイベントが各会場で実施されました。



備で参加した。お揃いのTシャツを着用し、普段見慣れない柔らかな雰囲気です。市民に接し、案内・誘導等を行った。

「私のお父さん」

嶋林しのぶ

私が三年生か四年生ごろ、お父さんが消防団に入りました。私は、これから、火事とかがあったら消防車に乗って火事現場に行くんだなあと思いました。

だいぶんたつた夜、寝ているとき電話が鳴った。お父さんは、急いで電話に駆け寄って、受話器を取りました。私は、目をつむっていても、お父さんが、「はいはい」と言っている声と、お母さんが走っている音が聞こえました。ちよつとしてから玄関の戸が「ガチャン」と閉まる音が聞こえました。私は、そのとき思いました。もう二時間もすれば仕事に行かねばならないのに大変だなあと思いました。

私は、お父さんが消防団に入ってからちよつとした音でも敏感になりました。サイレンのような音がなっていると、お父さんに「火事ちゃう」と言ってしまう

編集後記

第二号は「もつと柔らかな紙面を」と考えましたが、硬いのは記事だけでなく、広報部員の頭にも。

しのぶちゃんの作文の様に、「見聞き・感じたことを素直に表現する」が良いのだと思いつつ完成に至りました。

何時「素人集団」を抜け出せるのか心配ですが、はや次号に向けて思いを巡らせています。

「新しい団創り」に、団員及び一市民としての立場からの意見・希望をお寄せ下さい。

なお本紙へのご意見・問い合わせは、左記の委員及び表記発行所へご連絡ください。

広報部会名簿

- 委員長 北山泰次
- 副委員長 久田弘義
- 本部分団 黒川博昭
- 第一分団 植野保弘
- 第二分団 赤澤一己
- 第三分団 緒方靖司
- 第四分団 橋本修
- 第五分団 川端均
- 第六分団 泉良幸
- 第七分団 嶋野雅一
- 第八分団 川北雅弘
- 第九分団 杉田茂信
- 事務局 桐山和浩
- 植野康道
- 清水正己
- 植田定男
- 植田竹治
- 植田重光
- 西口
- 田辺宰史

最後に、火事のない町になつたらいいのね!

(第一分団 嶋林団員の長女)